



テーマ3

森林と生きる幸せを感じられる 「まちづくり」

大人も子どもも、女性も男性も、障がいのある人も、
だれもが森林を通して学び、遊び、才能を開花させ自己実現できる。
より多くの人が森林の恩恵を受けられ、人とつながり、幸せを実感できるまちへ。
森林へのアクセスを開き、その関わりしろを広げ続けるまちづくりに、
多様な人の知恵を巻き込みながら取り組みます。

22. 東山森林公園のリニューアル

ビジョン

子どもも大人も障がいのある人も楽しめるバリアフリーな森林公園として再整備され、地元住民や観光客が多く訪れる高知県東部の超人気スポットになっている。

東山森林公園は、高知県が昭和57年度から昭和61年度にかけて、伊尾木地区生活環境保全林整備事業として造成したもので、完成後の維持管理を本市が行っている森林公園です。四季の変化を感じながら気軽に楽しめる森林公園として、約7万本、120種類の植物を植栽し、ログハウスや休憩所などの施設のほか6種類の散策コースが整備されています。近年、定着しつつあるアウトドア人気の影響もあり、森林浴やトレッキング、トレイルラン等の利用者が増えていますが、一方で施設の老朽化や遊歩道の経年劣化、定着せず枯死した植栽木などが目立つようになっています。

自然に触れることにより得られる文化的ひらめき、心身のやすらぎなど、精神を豊かにする森林の持つ生態系サービス(多面的機能)の1つの「文化的サービス」を肌で感じることができる絶好の場所・東山森林公園をより快適に利用できるようにリニューアルし、同時に、森の楽しみ方や関わり方など森林公園の魅力を満喫する方法についても提案します。

ワンポイント

東山森林公園を「森の入り口：森林アクセス拠点」と捉え、森林や林業、木材産業に対する人々の関心を引き起こし、次世代に森を通じた教育体験を授け、関係人口(森づくりのファン)を拡大させ、つながり、考え、語り合う、本構想を体現した場所となるよう再整備をすすめます。

23. 安芸市のシンボルとしての妙見山周辺の森林環境の活用

ビジョン

岩崎彌太郎が立身出世を祈願し志を大書した星神社のある妙見山が、様々なアプローチで森づくりに挑む志ある人々のクロスポイント(交差点)になっている。

本市出身の偉人である岩崎彌太郎ゆかりの星神社がある妙見山は、本構想が描く幾つもの森づくりの未来像(ビジョン)が交差する場所となっています。また、東山森林公園から安芸平野を挟んだ西側に位置する対称性や、東山森林公園と同じく太平洋を望むことができる景観を有することから、本構想による森林・林業・木材産業振興に関する取組の発信地として活用します。具体的には林業研修の場、森林ゾーニングのテストフィールド、軽登山やトレッキング、歴史探訪のための観光スポット、植樹活動を通じた森林再生の場、麓の小学校と連携した森林教育の学校としての活用などを想定しています。



ワンポイント

妙見山周辺では、アクションプランNo.2で取り組む森林ゾーニング、No.7で取り組む市有林の整備、No.9で取り組む協働の森づくり事業、さらにNo.30で取り組む林業の担い手対策としての小さな林業(自伐型林業)のための研修等、様々な取組が想定されています。

24. 森林空間や歴史・ストーリーを活用した体験・観光の推進

ビジョン

安芸市のあちこちに誰でも森林浴を楽しむことができる素敵な森がある。
観光客が安芸市の森林をめがけて世界中からやってくる。
安芸市民は安芸の河川の源流の森を訪れたことがあり、その森を誇りに思っている。

森林の空間や恵み全般を活かす取組として、森林を活用した観光を推進します。とくに、1つの地域に長く滞在し、「体験」と「観光」をメインにした体験型、滞在型の観光を重視します。地域への経済波及効果や地元との交流を期待し、滞在日数の増加やリピート率の向上を目指します。自然の中でのアクティビティや伝統文化の体験、林業・木材産業の就労体験などを想定し、とくに本構想が大切にする「森と海のつながり」や別役地域の天然ブナ林を巡るツアーなど、「源流の森」を感じることができるプログラムの開発を目指します。対象は、市民はもとより市外、県外、さらには海外からの外国人旅行者も対象とします。また、体験型観光がお試し移住としての側面も持つことから、観光客に限らず、地方移住を検討し移住先を探している人も対象として捉えます。旅行者に本市が提供できる森林体験を開発すべく、森づくり市民ワークショップで取り組んだ森林浴スポットや森林観光名所の再発見ワークを継続します。

ワンポイント

生物多様性の保全には、自然とのふれあいを通じた体験に基づく理解の醸成が欠かせません。かつては、日常生活の中で自然との接点があり、私たちが自然の一部であると感じる機会が多ありましたが、現代の、とくに都市部ではこのような機会が少なくなっています。このことをチャンスと捉え、森づくりのファン、本市のファンになってもらえるように取組を進めていきます。

25. 安芸市流域森づくり構想の情報発信

ビジョン

安芸市流域森づくり構想の市民認知度が100%になり、
インターネットで「安芸市」と検索すると「流域森づくり構想」が上位に出てくる。

森づくりに関する情報発信を積極的に行い、森と人の距離を縮めて、自分たちの森について考える機運を高めていきます。また、本構想のロゴや、スローガンである「Blue Forest, Blue Ocean. ～ブルーフォレスト・ブルーオーシャン～」の露出を最大化して構想の認知度向上を図り、動画コンテンツ等の充実により、構想に基づく取組を市内外に強く発信していきます。市民はもとより、市外、県外、海外に本市の森づくりの魅力を伝え、1人でも多くの「安芸市流域森づくり構想のファン」を獲得することを目指します。

指 標	現状 (R5・2023)	R10・2028	R15・2033
紙媒体での情報発信	—	森づくり関係者へチラシを定期発送	市広報紙の紙面や折り込みチラシに記事を掲載している
SNSでの情報発信	—	フォロワー3,000人	フォロワー6,000人

ワンポイント

画一的なアプローチではなく、市の広報紙や安芸市ホームページ、SNS、動画コンテンツ等を活用（主体的に発信することができるメディアを持つ）し、情報の受け手の年齢や属性に合わせた効果の高い媒体を選択しながら、情報発信の継続を最優先に取組をすすめます。また、情報発信の作業は安芸市流域森づくり構想の歩みの記録にもなることから、構想の定期見直しの際の重要なデータとなることを念頭に取り組みます。

26. 森林を通じた教育(森林環境教育)

ビジョン

赤ちゃんや子どもたちが森に触れて、たくましく、すくすくと育っている。
自然との関わりについて世界基準の新しい考え方ができる人材が安芸市で育つ。

森林環境の維持や生物多様性の保全、林業・木材産業の振興には次の時代を担う若者の意識の変容が重要です。幼い頃から森や木を身近に感じる経験を重ねれば、その大切さや関わる多くの産業についての正確な認識を持つことができると考えます。自然の恩恵や自然と人との関わり等についての様々な知識の習得や関心の醸成、人としての豊かな成長を図るとともに、人と森林、野生動物との適切な関係についての考え方を伝えていきます。保育所、学童保育、小・中・高校との連携を図り、小学校での出前授業や中学校への情報誌(チラシ)の配布のほか、高校生については森づくり市民ワークショップへの参加や森づくりに関する政策の議論の場への参加を視野に働きかけを行います。

ワンポイント アクションプランNo.22と連動し、東山森林公園を「森の学校」と位置づけ、幼児教育や学校教育等における森林空間を活用した教育プログラムを実施できるよう取り組みます。これらの取組は、体験する子どもだけではなく、保護者に対しても森や木の魅力を再認識してもらう機会を創出することができると期待されます。

27. 森づくりへの市民参加促進、ネットワークづくり

ビジョン

森の魅力を知ることができる勉強会が開催されている。
森づくり市民ワークショップは、子どもから大人までが楽しめる人気のイベントとなる。

安芸市流域森づくり構想の実現のために、重点課題や各取組(アクションプラン)に関連したテーマの講演会(勉強会)を行い、最新の知見を得ることができる環境を提供します。とくに、「森づくりはまちづくりである」という視点を持ち、森林との関わりしろを広げることを重視し、講師や受講者どうしの交流を活発化させ、今後の連携につなげていきます。また、林業就業者のスキルアップや連携を目的とした林業研修を実施するほか、経営に関する知識や気候変動対策、生物多様性保全といったグローバルな取組等についての勉強会を行うなど林業技術の向上だけに留まらない学びを提供します。さらに、森づくりに関わる人の集う場、議論やアイデア出しの場、森づくりの楽しさを体感する場として森づくり市民ワークショップを定期開催し、主体的な関係人口の拡大にも努めます。

指 標	現状(R5・2023)	R10・2028	R15・2033
講演会、林業研修会の開催	—	年間1回以上 継続開催	年間1回以上 継続開催
森づくり 市民ワークショップの開催	1回開催	毎年1回 継続開催 (延べ参加者数150人)	毎年1回 継続開催 (延べ参加者数300人)

ワンポイント 本市の森林資源や森林・林業・木材産業だけが安芸市らしさではなく、この「林業を学ぶなら安芸市へ」と言えるような充実した学びの場そのものも安芸市流域森づくり構想が思い描く「安芸市らしさ」となるよう取組をすすめます。

28. 森林保全団体の育成・支援、コミュニティづくり等に係る市民活動への助成

ビジョン

機動力のある団体が長年活動を続け、安芸市流域森づくり構想を具体化させている。森づくりのアイデアが市民からどんどん生まれ、形になっていく。

安芸市流域森づくり構想の具体化には森林保全団体などの森づくりを推進する組織の力が欠かせません。この組織の活動を支援し、効果が最大化するよう取組をすすめていきます。とくに森林・林業・木材産業での女性の活動を支援するなど、多様な人材がその才能を発揮して活躍できるようサポートします。本市の森でやりたいことを見つけた人が、それを形にできる環境を整え、可能性と希望に満ちた挑戦しがいのある場を整備します。



東山森林公園で森林浴イベントを行う市民団体

29. 森づくりへの民間ノウハウや資本の活用、地域他産業・異業種との連携

ビジョン

安芸市の森づくりの魅力が広く知られ、そこに未来を感じた人が資金や知識・経験を投じて発展を加速させている。

森林・林業・木材産業振興の財源として森林環境譲与税等を含む公的資金が活用されていますが、これらの財源だけに頼るのではなくコミュニティ・ファンド等の活用も検討し、本市の森づくりに賛同する個人や企業、団体が本構想のビジョンに賛同し、共に構想の実現に向けて協働できるよう取り組みます。

公的資金による確かな発展と、民間投資による柔軟な事業展開が本構想を大きく育てると期待します。とくに、森づくりに民間のノウハウが持ち込まれることで可能性が広がると考えます。また、木材利用による農業や漁業施設の脱プラスチック、脱炭素化の取組を検討し、観光業や福祉、教育といった他産業・異業種との連携による本市のイメージアップや付加価値化を図り、まちづくりの促進や安芸市全体のブランド化に貢献します。

ワンポイント

コミュニティ・ファンドとは、銀行等の金融機関ではなく、任意の団体が市民・住民から資金を集めて、地域社会貢献を目的とする地域に根ざした事業性・収益性のある事業（コミュニティ・ビジネス）等に対して、融資や出資を行なう仕組みです。その地域を愛する多くの市民・団体・企業等が自発的に寄付という形で資金を提供しあうことで基金を形成し、それら市民活動団体に対して、開かれた自律的なルールによって助成金を拠出することで地域を良くしていこうとすることが、「コミュニティ・ファンド」の役割となっています。

30. 森林で活躍する、森林を通して自己実現できる人づくり

ビジョン

安芸市の森づくりに憧れて林業に就業する、移住する人が絶えず、大規模から小規模まで多様なスタイルの林業が共存・補完しあっている。安芸市の林業人材は、よく交流し、学びあい、同じビジョンを描く仲間になっている。女性や初心者が林業を志すなら、まず安芸市に行く。林業ベンチャー企業の参入や林業で起業する人が続出している。

■本市ならではの人づくり

本構想で描かれているように、森林は関わりしるがとて広く、多様な生業や活動の場となる、可能性にあふれたフィールドです。安芸市流域森づくり構想に共感し、その実現に向けて自分の個性や得意を活かしながら、自らが理想とするワークスタイルやライフスタイルを形にしていける人づくりを重要と考え、3つのテーマに共通のアクションプランとします。本市ならではの人づくりとは、多様な流域環境や川上から川下の産業、異業種とのつながりがあるという本市の特徴を活かし、1つの専門分野に留まらず広い視野で森林を捉え、ほかのプレーヤーと連携して様々な価値を生み出せる人材を育てることです。そのために、次の取組を行い、森林を通して人が成長しつづけられるまちを目指します。

- ①森林・林業・木材産業や本市を知るきっかけづくり(発信・体験)
- ②スキルアップ(専門知識・技術の習得)
- ③就労環境や生活環境の整備
- ④同業者や異業種との交流・連携
- ⑤経営力強化やプロフェッショナル人材の流動化
- ⑥複業化・総合人材化、といった総合的な支援や学びの場づくり

指 標	現状 (R3・2021)	R10・2028	R15・2033
林業就業者数	81人	90人以上	100人以上
林業分野へのUIターン新規就業者数	—	1名以上／年 (継続)	1名以上／年 (継続)

また、本市の森林・林業・木材産業に新規参入するベンチャー企業や、林業で起業を志す人を応援し、必要な支援を行います。とくに、林業の担い手対策としては大規模施業が困難な里山や所有形態が小規模な山林の森林整備を主に行う小さな林業(自伐型林業)の推進に取り組めます。また、林業の機械化がすすんだことで、素材生産や森林調査等で女性が活躍する場が増加していることから、女性が輝く豊かな地域社会の実現に向けて、林業などに従事する女性の活躍を支援し、林業界における多様な担い手を育成することを目指します。さらに、森林空間の活用に向けて森林ガイド等の人材の育成にも取り組みます。

■森づくりを担う人材

森林・林業・木材産業の振興のためには、課題解決から始めるアプローチとは別に、「どのような森林、林業、木材産業でありたいか」というゴールを思い描いてからアプローチするという方法も重要です。この考え方ができる、主体的に森づくりに参画できる人材を増やすことを目指して、森づくりへの市民参加を促進します。また、そのような主体的な関係人口をネットワーク化(結びつけ)し、同時にその情熱が持続するような環境を構築・維持します。単に、「担い手」、「労働力」として人材を捉えるのではなく、森づくりについて自分は何をしたいのか、という視点を持つ人々が本市に集まり、ネットワーク化し、支えあい、成長し合っていくことで、森づくりについての一人ひとりの夢や理想が実現できる安芸市になると考えます。

ワンポイント

アクションプランNo.3と連動した植樹活動やNo.27と連動した講演会、林業研修会、森づくり市民ワークショップを通じて「森づくりについて語り合う市民」を増やします。